

新たなシステム販売の取組みについて

上川北部森林管理署 長田 拓也
北森協同組合副理事長 近井 孝義

1. はじめに

森林・林業基本計画においては、森林の有する多面的機能の持続的な発揮及び林業の持続的かつ健全な発展を図るとともに環境負荷の少ない循環型社会を実現する上で、森林・林業に収益を還元し得る木材の加工・流通の構築が喫緊の課題であり、このため、原木の安定供給体制の整備や加工・流通の合理化・低コスト化、木材の利用拡大を図っていくこととされています。

また、国有林においては、地球温暖化防止対策として間伐等の森林整備を推進しており、森林整備を通じて生産される間伐材を有効に利用していくことが重要な課題となっています。

国有林では、これらの課題を踏まえ間伐材等を大量かつ安定的に需要者に供給する仕組みとして、「システム販売」に取り組んできました。

当署の今年度のシステム販売において、北森協同組合より自動選別機を利用した数量把握の企画提案があり、これまでにない新たな企画提案であるシステム販売（以下「新たなシステム販売」という。）に取り組みしたので、その実施経過等について報告します。

2. 新たなシステム販売について

従来のシステム販売での流れは、素材生産請負業者が山元土場で径級や長級を検知し樅積みを行ってから協定者に販売していました。北森協同組合の企画提案では、この検知・選別を自動選別機で行い、径級別等に管理又はそのまま工場へ直送等により、コスト等の低減を図ることとしています。

なお、新たなシステム販売では、数量確定前に運搬・販売することになることから、運搬前に予定数量を契約し契約金額を納付してから素材の運搬を行い、契約金額を越える前に不足分を精算するという概算契約を実施

しています。

3. 新たなシステム販売の実施結果

(1) 検知作業の効率化

実際にどの程度の効率化になっているのか、自動選別機だけでは比較出来ないのでは、素材生産請負業者のご協力をいただき人力による素材検知の工期を調査し数値化することで、自動選別機の処理能力との比較を行った結果、自動選別機による処理工期が高く、径級別等の管理も容易であること、選別後すぐに工場へ搬入する事が出来ることがわかりました。

(2) 自動選別機の検査の方法

素材の検知検査を行う際に自動選別機の性能からすると、現在の検査基準との矛盾が発生し、それに対する対応策について検討を行いました。

(3) 素材生産への影響

概算契約を行っているため、山土場に素材が貯まればすぐ運搬でき、素材の引渡しができる反面、運搬時に現場代理人が運搬するトラックの写真を撮影しなければならず、台数が多いと1時間毎にトラックが来るため写真撮影以外の仕事が出来なくなるという実態になりました。

また、土場に出てくる素材で層積検知の材が多いと、結局検知・検査が終わるまで土場からの運搬が出来ず、土場の広さも従来通り広く取らないと素材の置場がなくなるということになりました。

4. おわりに

これまでにない新たなシステム販売の取組みであったことから、課題を検討しながら実施してきたところですが、まだまだ改善の余地はあり、今後も安定供給及び低コスト化を目指し改善を図りながら進めていく考えです。